雲南市における凍傷治療の１例

大藤（おおふじ）　聡（さとし）[1)]　横山（よこやま）　勝利（かつとし）[2)]

キーワード：凍傷，保存的，徘徊，frostbite

要　旨

冬季に最低気温が氷点下となる島根県中山間地域では凍傷に遭遇する可能性がある。われわれは保存的に治療した両足凍傷を経験した。初診時，足指に紫斑，水疱，びらんがあった。発見状況と理学的所見から凍傷として治療した。

は　じ　め　に

凍傷に関する知見は1951年の朝鮮戦役時の多数症例の観察[1)]によって普及したものと思われる。患者は冒険家，軍人に多いとされていたが防寒資材の進歩もあって近年は液化フロン取扱いや社会的弱者あるいは基礎疾患をもつ者の受傷報告が散見される。今回われわれは徘徊によって受傷した両足凍傷の治療機会を得たので報告する。

症　　例

患者：61歳，女性

初診日：Ｘ年１月15日

主訴：足が痛い

既往症：注意欠如多動性障害疑い

生活歴：初診日よりおよそ20年前に精神科受診歴あり。Ｘ－１年４月に精神科入院して注意欠如多動性障害疑いと診断された。

現病歴：初診日の午前５時ごろ，足に靴下をはいた状態で路上に倒れているところを通行人に発見された。靴ははいていなかった。路上に倒れていたいきさつは不明。午前11時に足の痛みを主訴に本人を担当する福祉職員につきそわれて当院整形外科受診。整形外科より左足に皮膚障害あるので皮膚科紹介となった。初診日の雲南市最低気温はインターネット気象情報サイト，AccuWeather（accuweather.com）によると０℃。路上には残雪が圧雪となっていた。

来院時身体所見：体温36.9℃，血圧129/61，意識レベルは Japan Coma Scale でⅡ－10，まとまりのある会話はできず。瞳孔正円同大。眼球運動正常。胸部腹部理学所見特記事項なし。すべての手指は潮紅。左足指に水疱と水疱破綻によるびらんがあった。左足底全体と左足背（図１），右第１足指趾に紫斑と浮腫があった。左足背の中央より末梢で痛覚なし。左足底かかとより末梢で痛覚なし。右第１足趾は先端まで痛覚あり。18ゲージ

Satoshi OFUJI et al.
1）雲南市立病院皮膚科　2）医療社団法人上桜会
連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96番地1
雲南市立病院皮膚科